

# ムーラン・ルージュ新宿座

## 赤い風車

昭和の初期に馬糞横町といわれていた武蔵野館通りの奥、甲州街道の陸橋の手前右手にあったムーラン・ルージュ新宿座は、屋根の上にその名のとりの赤い風車がぐるぐるまわる小さな劇場で、そこで上演される軽演劇とレビューは、山の手の子供やサラリーマンたちの人気を集めていました。

## 浅草軽演劇

もと映画館だった新宿座にパリのレビュー劇場名をそのままとったムーラン・ルージュという名の劇団が、初めて芝居とレビューを上演したのは昭和6年(1931)12月31日のことでした。当時は、左翼演劇集団に対する弾圧が厳しくなり、また一般商業演劇も盛り上がりえない頃で、国全体が不況にあえぎ、しだいに戦争へと向かいつつある暗い空気に包まれていた時代でした。この暗い風潮に反発するように、人々は浅草のカジノ・フォーリーの新しいレビューと軽演劇に熱中し、そのスターであるエノケン(榎本健一)やロッパ(古川緑波)、シミキン(清水金一)らが笑いを振りまく玉木座、金龍館、常磐座などに拍手を贈っていました。玉木座で支配人をしていた浅草オペラ出身の佐々木千里は、このレビュー流行の風潮に目をつけ、山の手の子供を対象に、当時目覚ましい発展ぶりを見せていた新興の街、新宿に旗揚げしたのがムーラン・ルージュでした。

## ムーラン旗揚げ

ムーラン・ルージュは、当時新興芸術派として脚光を浴びていた作家の龍胆寺雄、吉行エイスケ、樺崎勤を文芸部の看板として顧問に迎え、カジノ・フォーリーの文芸部長だった島村竜三を実質上の責任者としてスタートしました。開演当初はカジノや玉木座の再演が多く、客足も芳しくなかったため、経営難で佐々木が競馬で当たった金を座員の給料にまわしたというエピソードも残っています。

# MOULIN ROUGE

REVIEWムーランルージュ  
14新宿座でしわ回谷31  
64 PROGRAM No. 131



第百廿一回公演番組		
1 脱衣の文と脚線集	九 章	平日 午後 七時 開始 日・午 午後 八時 開始 日・午 午後 十時 開始
2 結江芦生屋切り	十 景	
3 風流ユーモレスク	十 回輪	
4 かんたんヒコ季節の歌	五 章	

1 脱衣の文と脚線集 2 結江芦生屋切り 3 ヴァラキヤハイ 4 古風社囃子狂	5 章 1 幕の全と脚線集 2 結江芦生屋切り 3 ヴァラキヤハイ 4 古風社囃子狂	第百廿一回公演番組 日・六月十四日 日・六月十三日	大 上 座 石 橋 義 光 三 島 村 隆 吉 澤 村 隆 吉 三 島 村 隆 吉 澤 村 隆 吉 三 島 村 隆 吉 澤 村 隆 吉 三 島 村 隆 吉 澤 村 隆 吉 三 島 村 隆 吉 澤 村 隆 吉
伊藤 雄之助 藤原 釜足 松本 信子 山本 浩二	伊藤 雄之助 藤原 釜足 松本 信子 山本 浩二	伊藤 雄之助 藤原 釜足 松本 信子 山本 浩二	伊藤 雄之助 藤原 釜足 松本 信子 山本 浩二

①ムーラン・ルージュ新宿座プログラム